

TECHNICAL DATA

仕上げの種類	水性セラミック配合アクリル樹脂断熱塗料
製品名	ガイナ

下塗材： エポキシ樹脂浸透系下塗材
「ガイナマルチシーラー」

初版 作成日： 2018年4月24日

株式会社 日進産業

標準施工仕様書

- 仕上げの種類 : 水性セラミック配合アクリル樹脂断熱塗料
- 製品名 : ガイナ
- 適応下地 : コンクリート、モルタル、窯業サイディング、スレート屋根、モニエル瓦 など

●コンクリート、モルタル、窯業サイディングの場合

工程	材料・調合	塗装方法	塗回数	間隔時間 (23℃)	所要量
素地調整	<ul style="list-style-type: none"> ・ミルスケール、ほこり、油脂分などは入念に除去し、乾燥した清浄な面としてください。 ・さびや粉化物はサンドペーパーやディスクサンダー等の電動工具を用いて除去してください 				
下塗り	ガイナマルチシーラー 主材 : 12.5 kg 硬化剤 : 2.5kg 無希釈	刷毛 ウールローラー エアレススプレー	1~2	3以上 7日以内	45~150 m ² /15 kgセット 0.14~0.34 kg/m ²
上塗り	ガイナ 主材 : 14 kg 清水 : 0.7~1.4 L	刷毛 ウールローラー エアレススプレー	2	3以上	30~35 m ² /14 kg 0.40~0.46 kg/m ²

●スレート屋根の場合

工程	材料・調合	塗装方法	塗回数	間隔時間 (23℃)	所要量
素地調整	<ul style="list-style-type: none"> ・ミルスケール、ほこり、油脂分などは入念に除去し、乾燥した清浄な面としてください。 ・さびや粉化物はサンドペーパーやディスクサンダー等の電動工具を用いて除去してください 				
下塗り	ガイナマルチシーラー 主材 : 12.5 kg 硬化剤 : 2.5kg 無希釈	刷毛 ウールローラー エアレススプレー	1~2	3以上 7日以内	25~100 m ² /15 kgセット 0.15~0.60 kg/m ²
上塗り	ガイナ 主材 : 14 kg 清水 : 0.7~1.4 L	刷毛 ウールローラー エアレススプレー	2	3以上	30~35 m ² /14 kg 0.40~0.46 kg/m ²

●モニエル瓦の場合

工 程	材 料・調 合	塗 装 方 法	塗 回 数	間 隔 時 間 (23℃)	所 要 量
素地調整	・ミルスケール、ほこり、油脂分などは入念に除去し、乾燥した清浄な面としてください。 ・さびや粉化物はサンドペーパーやディスクサンダー等の電動工具を用いて除去してください				
下塗り	ガイナマルチシーラー 主 材：12.5 kg 硬化剤： 2.5kg 無希釈	刷毛 ウールローラー エアレススプレー	1～2	3 以上 7 日以内	50～100 m ² /15 kg缶 0.15～0.30 kg/m ²
上塗り	ガイナ 主材：14 kg 清水：0.7～1.4 L	刷毛 ウールローラー エアレススプレー	2	3 以上	30～35 m ² /14 kg 0.40～0.46 kg/m ²

注1 施工用具・条件は代表的なものです。

注2 間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。

注3 所要量の確認は塗見本との比較または単位体積当たりの使用量で確認して下さい。

注4 上塗材の可使時間は、6時間（23℃）となります。

注5 モニエル瓦への塗装は、光沢感が出るまで重ね塗りして下さい。

● 荷 姿

ガイナマルチシーラー	主材	NET:	12.5 kg/缶
	硬化剤	NET:	2.5 kg/缶
ガイナ	主材	NET:	14 kg/缶

成分表

● 下塗材 : ガイナマルチシーラー 主材 (クリア)

内 容	重 量 (%)
エポキシ樹脂	35.0
添加剤	2.0
溶剤	63.0
計	100.0

: ガイナマルチシーラー 主材 (ホワイト)

内 容	重 量 (%)
エポキシ樹脂	35.0
白色顔料または体質顔料	17.5
添加剤	3.5
溶剤	44.0
計	100.0

: ガイナマルチシーラー 硬化剤

内 容	重 量 (%)
変性脂肪族アミン	21.0
添加剤	3.5
溶剤	75.5
計	100.0

性能試験成績書

下塗の種類	1 液エポキシ樹脂浸透系下塗材		
製品名	ガイナマルチシーラー		
項目	規 定	結 果	
容器の中の状態	主材・硬化剤ともに、堅い塊がなく一様であること	合格	
ポットライフ	5時間で使用できること	合格	
表面乾燥性	23℃	8時間以内で表面乾燥する	3時間以内
	5℃	16時間以内で表面乾燥する	5時間以内
塗膜の外観	塗膜の外観が正常であること	異常なし	
鏡面光沢度(60°)	80以上であること	89	
耐衝撃性	ひび割れ、はがれおよび著しい変形がないこと	合格	
耐洗浄性	はがれ及び摩耗による基盤の露出がないこと	合格	
可とう性	ひび割れがないこと	合格	
防藻性	藻の発生が認められない(社内試験)	合格	
防かび性	かびの発育が認められない(JIS Z 2911)	合格	
耐湿潤冷熱繰返し性	湿潤冷熱繰返しに耐えること	異常なし	
促進耐候性	キセノンランプの照射2500時間において、塗膜に、割れ・はがれ・膨れがなく、光沢保持率80%以上であり、白亜化の等級が1以下であること	合格	
-以下余白-			

*上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承ください。

施工にあたっての要点

●下地

- 【1】 下地調整や水洗いが不十分だと塗膜剥離の原因となります。また、光沢が出ない

などの仕上がり不良になる場合があります。塗り替えでは必ず高圧水洗かブラシなどによる洗浄を行い、付着物や劣化塗膜を除去してください。

- 【2】 水洗い後は夏季2日以上、冬季3日以上乾燥させてください。また、カラーベスト、コロニアル表面が雨、霧などで濡れている場合は十分に乾燥させてください。
- 【3】 旧塗膜の浮き・剥がれ・チョーキング層等は除去してから施工して下さい。

●施工

- 【1】 色・模様決定に当たっては、原則として塗見本を作製して、工事監理者の承認を受けて下さい。
- 【2】 塗見本は、必要に応じて工程ごとに手順が分かるものとします。
- 【3】 所定の塗付量に達しない場合や超えてしまう場合には、種々の欠陥を生じる場合があります。所定の塗付量を守って施工して下さい。
- 【4】 エアレス塗装では塗装ミスの飛散防止対策を確実に行ってください。

●材料

- 【1】 材料は直射日光下及び45℃以上0℃以下での保管は避けて下さい。
- 【2】 溶剤系の製品を取り扱う場合は特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守して下さい。

●工法

1. 材料の取扱い

- 【1】 製品は使用前に均一にミキサーで混ぜ合わせて下さい。
- 【2】 希釈に必要な製品は指定の希釈材を使用し適切な量、適切な方法で均一に薄めて下さい。
- 【3】 2液形の製品は、主材と硬化剤を指定の比率で調合し、ミキサーで混ぜ合わせて下さい。特に小分けでご使用の場合は計量器で正確に計量を行なって下さい。混合後の製品は、可使時間以内に使い切ってください。また、可使時間は温度、希釈によって変わりますので、混合後はなるべく早く使い切ってください。
- 【4】 既調合タイプの材料を希釈したり、他の材料と混合しないで下さい。
- 【5】 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS（安全データシート、旧MSDS）を参照して下さい。

2. 下塗り

- 【1】 旧塗膜の種類によって溶剤の影響により縮みや膨れ、剥がれなどが発生する場合があります。本施工前の試し塗りで確認して下さい。

3. 上塗り

- 【1】 上塗材は、2回塗りを標準とし、色むら、だれ、光沢むらのないよう均一に塗り付

けて下さい。

- 【2】 上塗材の希釈率は試験塗りなどにより決定し、それ以降は同一の希釈率で使用して下さい。希釈率は色相及び施工時の気温により変化します。
- 【3】 希釈や温度、湿度の影響により変色する場合があります。

4. 施工方法

- 【1】 各種標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工して下さい。
- 【2】 塗装後、水切部でカラーベスト・コロニアルの重なり部分に塗料が付着し、つまりが発生すると漏水の原因となります。つまっている箇所は皮すき、ケレン棒、カッターなどでたまった塗料を除去し確実に縁切り処理を行って下さい。

●施工管理

- 【1】 施工場所の気温が5°C以下、湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生じることがありますので、施工を避けて下さい。
- 【2】 降雨、結露、降雪のおそれ又は強風のおそれがある場合は施工を避けて下さい。
- 【3】 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度を上昇を防止して下さい。
- 【4】 施工しない箇所はあらかじめ養生をし、その他の材料が付着しないようにして下さい。
- 【5】 養生を剥がす際は、十分に注意してください。
- 【6】 塗装間隔は午前9時から午後3時までの時間帯を推奨いたします。
- 【7】 山間部や夜露の早く降りる地域では早目に塗装を終えて、十分な乾燥時間を確保して下さい。

●その他の注意事項（一般）

- 【1】 施工器具等の洗浄水が、河川に流出したり、土壌にしみ込まないようにして下さい。
- 【2】 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行って下さい。
- 【3】 刷毛、ローラー、スプレー等、施工方法により若干の色相差を生じることがあります。
- 【4】 軽量モルタル、ALC パネル、高断熱型窯業系サイディング及び発泡ウレタンなどに施工する場合は、蓄熱したり、水の影響や、下地の状態、塗装時の環境など条件により、塗膜の膨れ、はがれなどが生じることがあります。
- 【5】 JIS A 6909 建築用仕上塗材 複層仕上げ塗材および可とう形改修塗材は、下塗材・主材・上塗材を同一メーカーの指定された製品を使用しないと、JIS 規格品ではありません。
- 【6】 艶調整品は被塗物の形状、膜厚や色目、塗回数、希釈率により、つやが異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時の塗継ぎ箇所で艶ムラを生じやすい傾向にあります。試し塗りの上、本施工して下さい。
- 【7】 濃色や原色に近い色彩は、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などに触れる可能性のある部位への施工は避けて下さい。
- 【8】 上塗りに黄色、赤色、青色、緑色系など彩度の高い色目を塗装する場合は、隠ぺい性を高めるため、あらかじめ隠ぺいの良い共色を塗装して下さい。
- 【9】 彩度の高い色目は、退色、色むらが早期に生じることがあります。
- 【10】 旧塗膜の種類により、下塗材を選定して下さい。

*本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照するようにして下さい。